

□ 最新がん統計 □

■ 罹患の概要

＜最新集計について＞

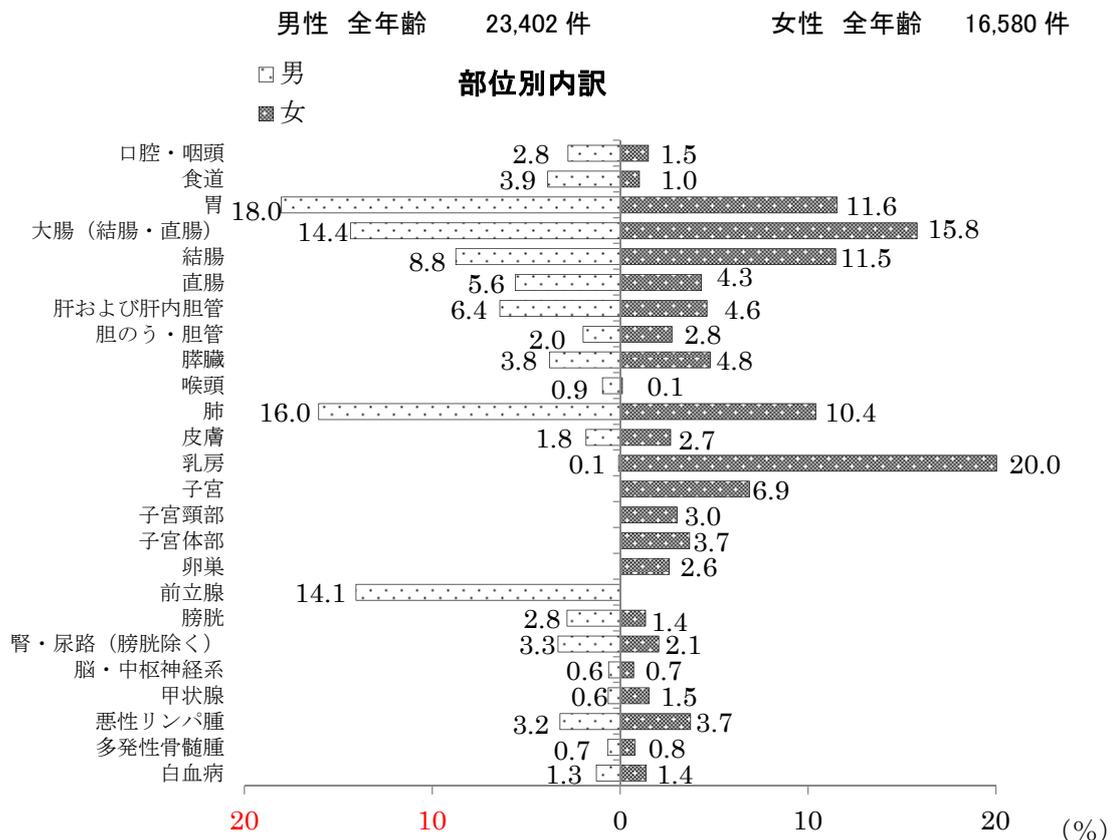
- ・集計の期間 罹患年月日が 2014(平成 26)年 1 月 1 日から 12 月 31 日の間の 1 年間
- ・集計の時期 2018(平成 30)年 3 月 2 日現在
- ・罹患年月日の決め方
  - ①届出による登録例は初めて当該がんと診断された年月日を罹患年月日とする。
  - ②届出がなく、死亡転写票によってがん罹患が判明した例は、死亡年月日をもって罹患年月日とする。
- ・集計の対象
  - ① ICD-O-3 分類の性状 2(上皮内), 3(悪性、浸潤性)で示される新生物(脳腫瘍は性状にかかわらず集計対象)
  - ② DCO 例については、①に加えて、ICD-O-3 分類の性状 1(良性・悪性の別不明:例悪性の明示のない〇〇腫瘍)で示される新生物による死亡で、部位が脳、肝、膵、腎、膀胱、肺
- ・精度指標
  - DCN: 12.1%                  DCO: 11.3%                  MI: 0.41

＜罹患の概要＞

2014 年に兵庫県において、男性延べ 23,402 件(上皮内がんを除く)、女性延べ 16,580 件(上皮内がんを除く)の、合計延べ 39,982 件(上皮内がんを除く)のがんが、新たに診断された。

男性で最も多いがんは胃がんであり、肺、大腸(結腸・直腸)、前立腺、肝、食道と続く。女性で最も多いがんは乳がんであり、次いで大腸(結腸・直腸)、胃、肺、子宮、膵臓と続く(図 1)。

図 1 部位別内訳(%) (表 1-A から作成)

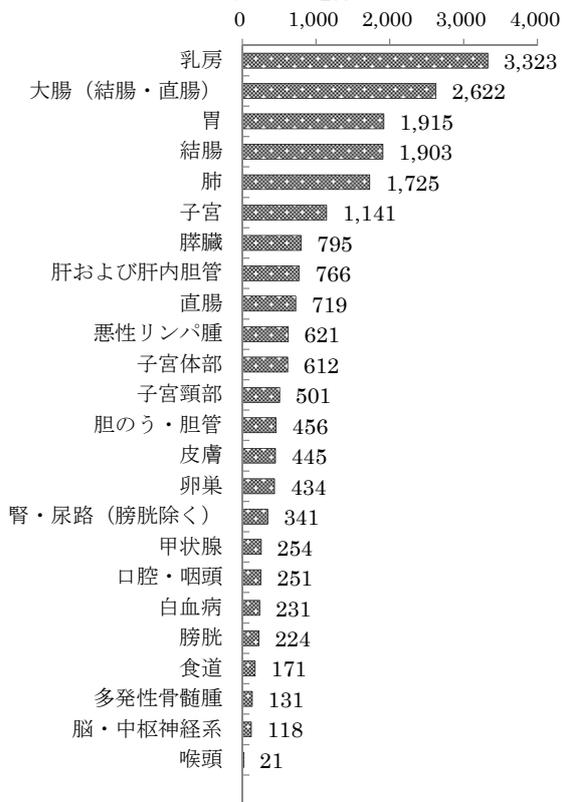


部位別性別罹患数及び年齢調整罹患率(人口10万対)

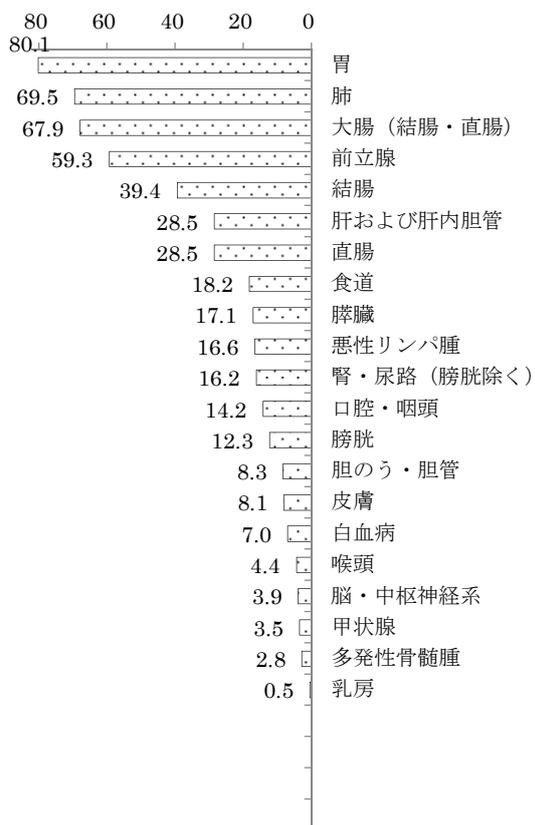
部位別罹患数 男  
(上皮内がんを除く)



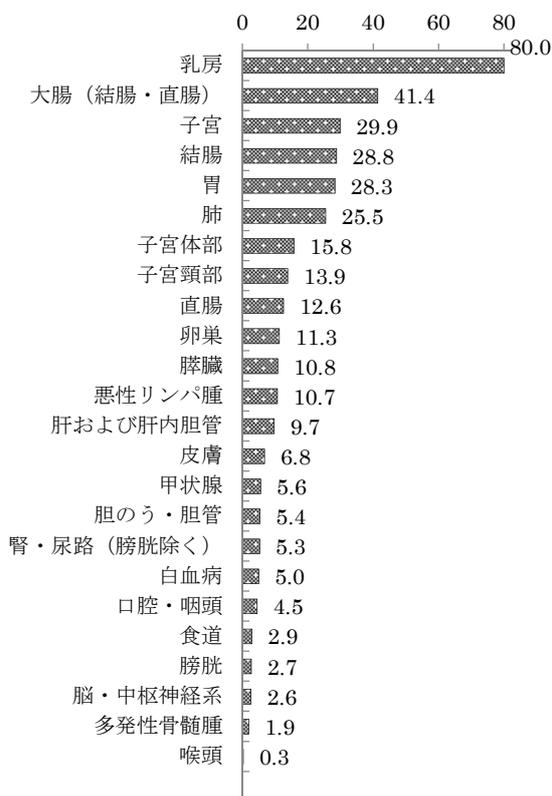
部位別罹患数 女  
(上皮内がんを除く)



年齢調整罹患率 男  
(上皮内がんを除く 人口10万対)



年齢調整罹患率 女  
(上皮内がんを除く 人口10万対)



### ●年齢別に見たがんの罹患

年齢別にみると、2014年に新たに診断されたがんの割合は、男性は約8割、女性は約7割は65歳以上であった。働き盛りの40-64歳の年齢層では、男性は全体の約2割、女性は約3割を占めていた(図2)。

女性の40-64歳のがんが多いのは、この年齢層の乳がんが多いためである。また、女性の15-39歳のがんが男性よりも多いのは、この年齢層の乳がんと子宮がんが多いためである(図3)。

性別にみると、ほとんどの部位のがんは、男性が女性より罹患率が高い。男女とも年齢が高くなるほど罹患しやすく、特に50歳以降で罹患率が上昇している。主ながんでは、男性の胃がん、肺がんは45歳以上、前立腺がんは50歳以上から急激に上昇している。女性の乳がんは、25歳以上から増え始め、45-49歳でひとつのピークを迎えている。子宮頸がんは50歳未満で多い(図4)。

図2 年齢別内訳(%) (表2-Aから作成)

年齢	罹患数		罹患内訳	
	男	女	男	女
14歳以下	34	46	0.1%	0.3%
15-39歳	267	516	1.1%	3.1%
40-64歳	4,809	4,626	20.5%	27.9%
65-74歳	8,343	4,288	35.7%	25.9%
75歳以上	9,949	7,104	42.5%	42.8%
合計	23,402	16,580	100.0%	100.0%

図2-1年齢別罹患数

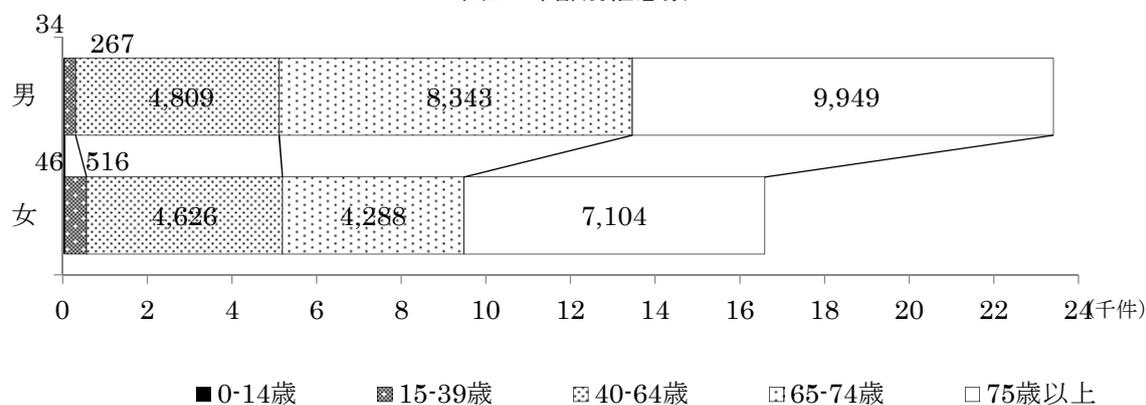


図2-2年齢別罹患内訳

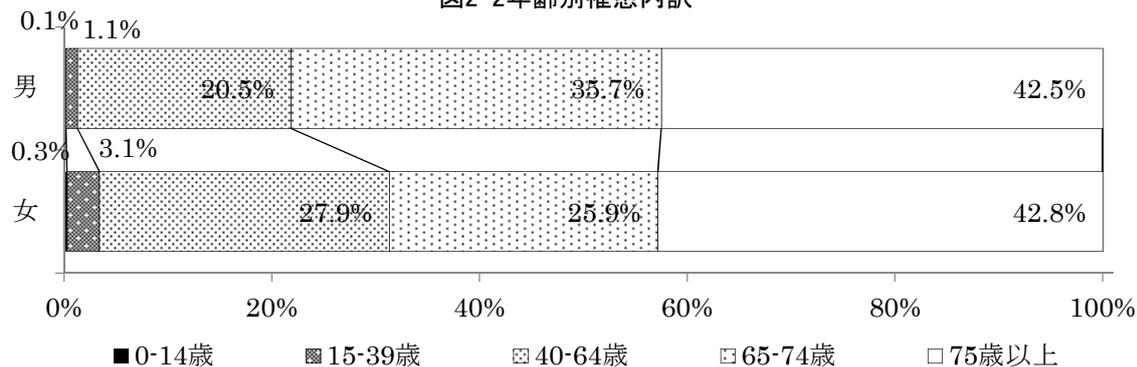


図3 年齢別部位別罹患数 (表2-A から作成)

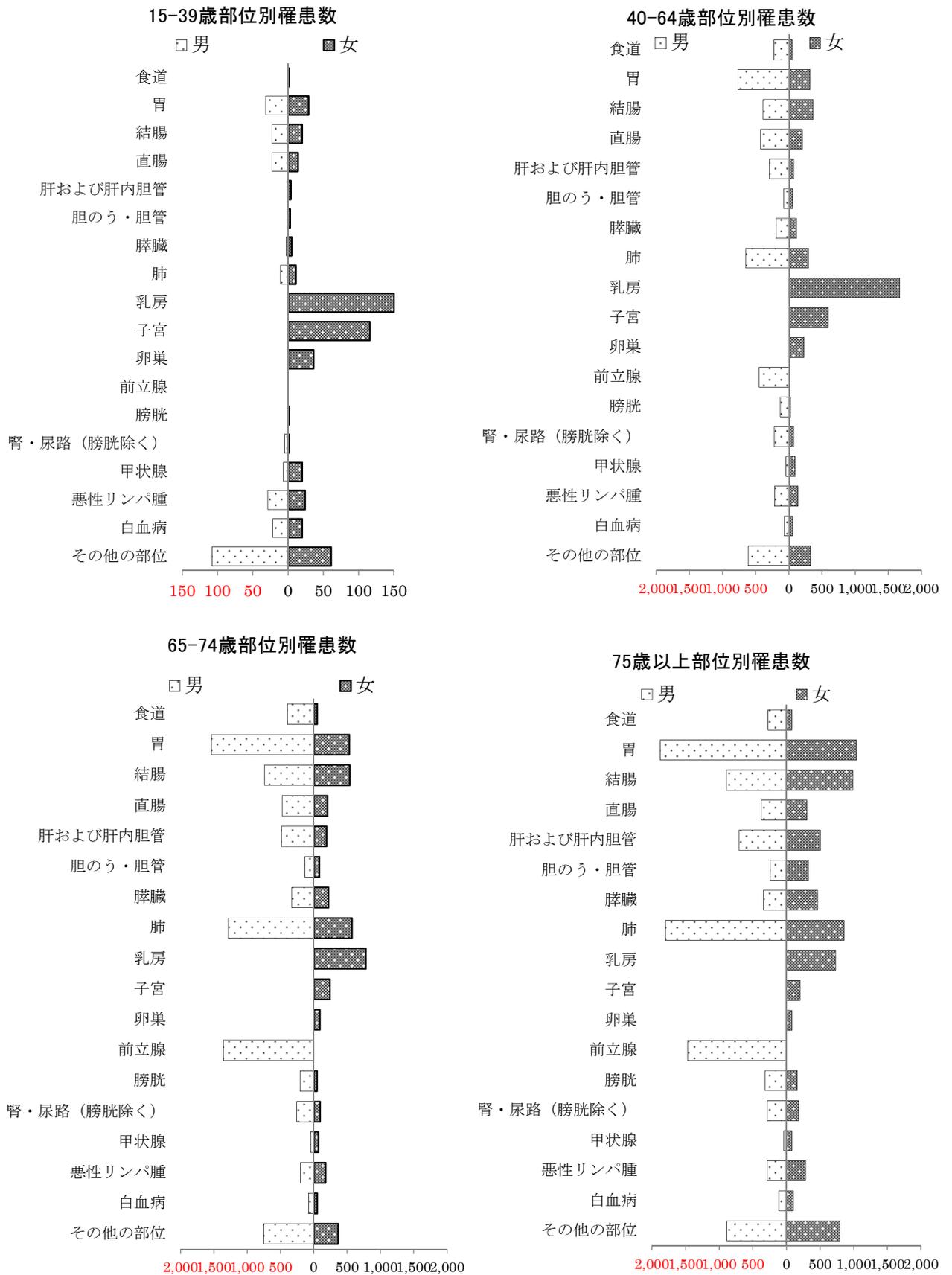
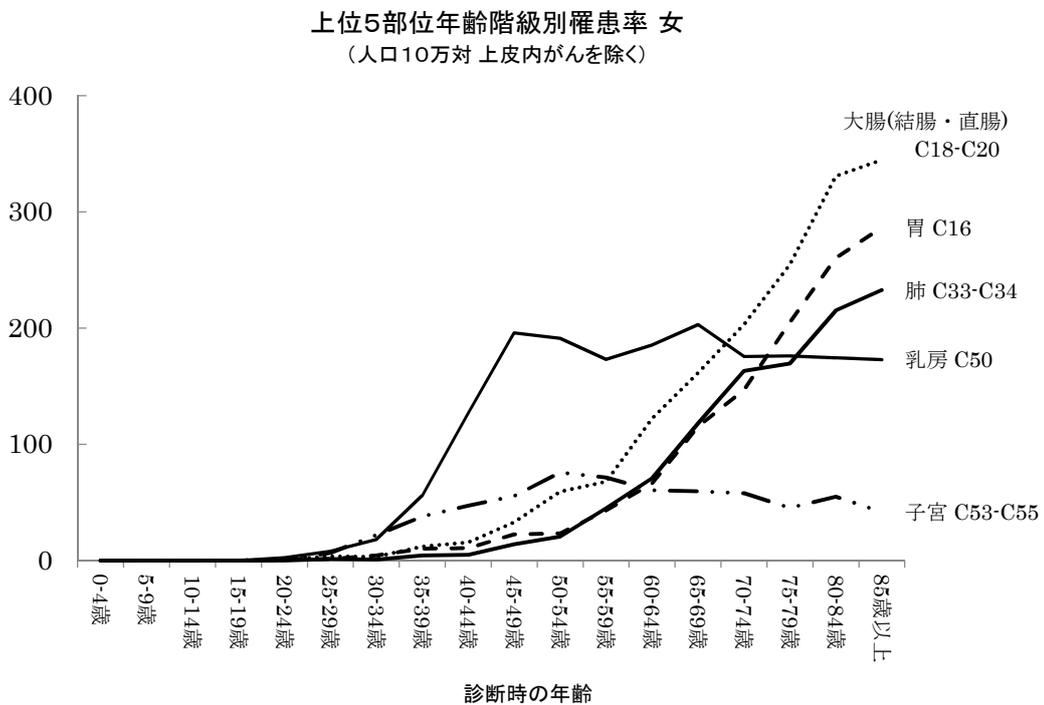
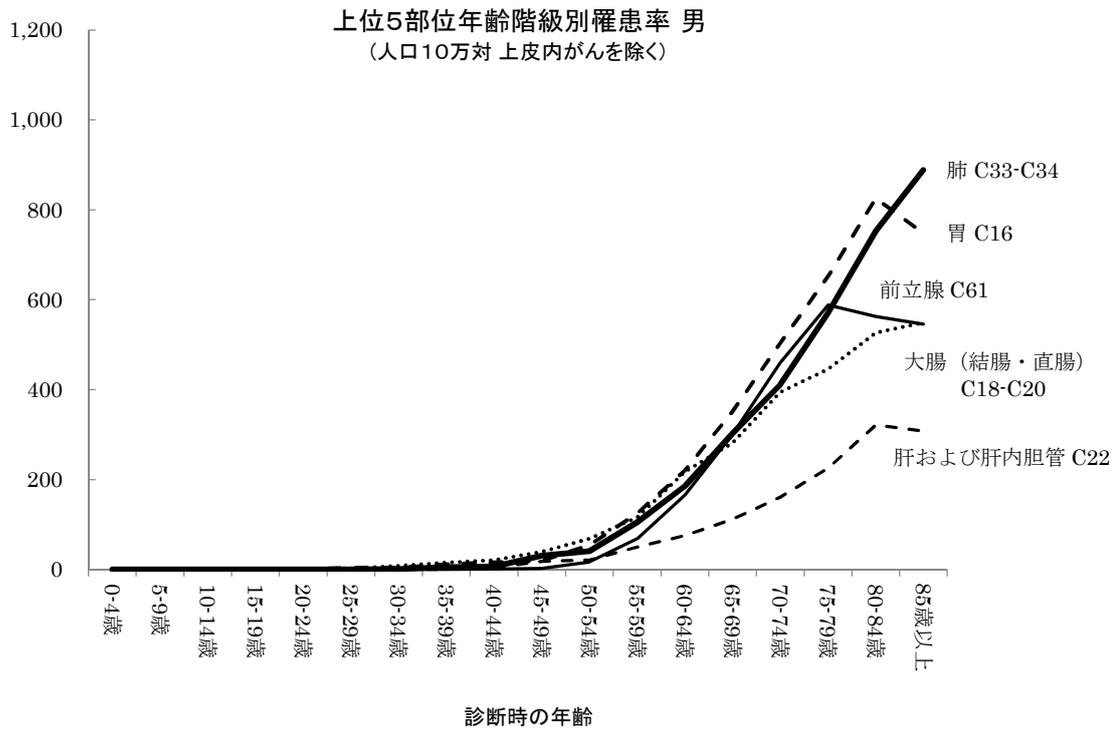
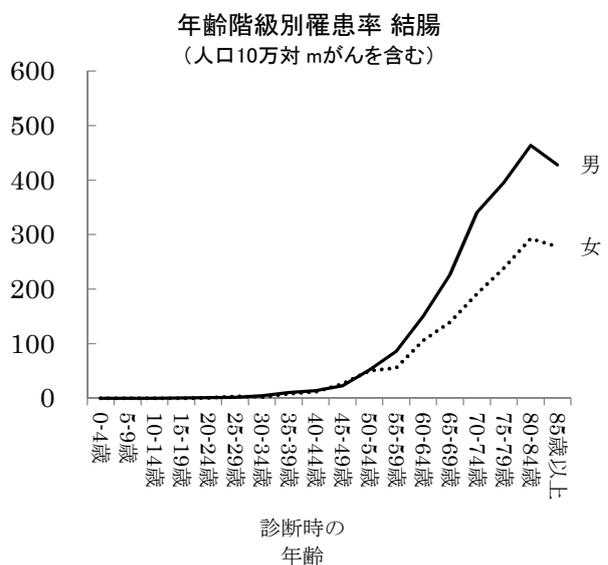
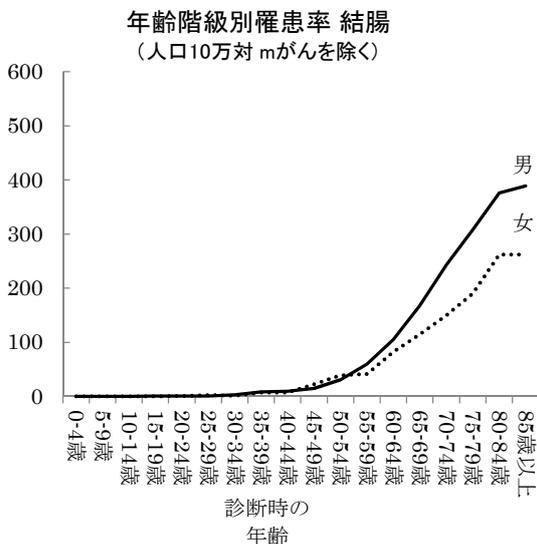
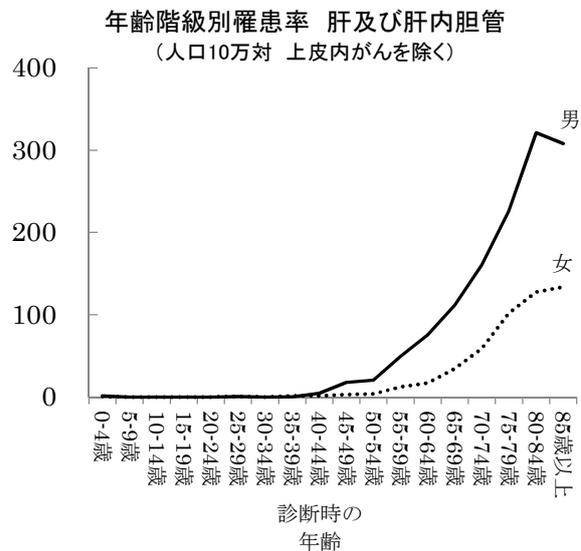
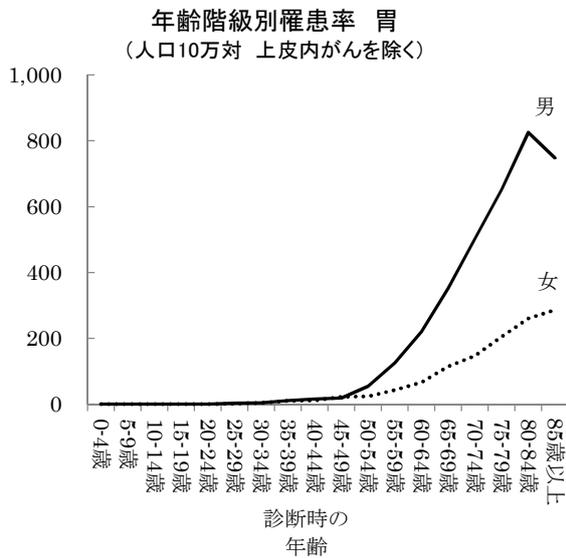
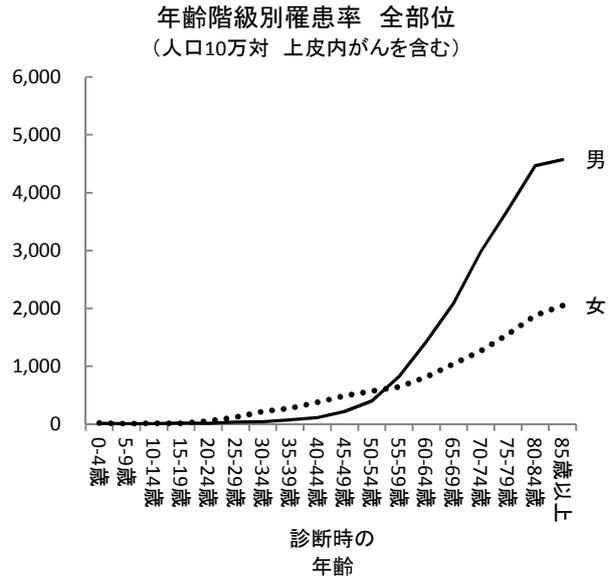
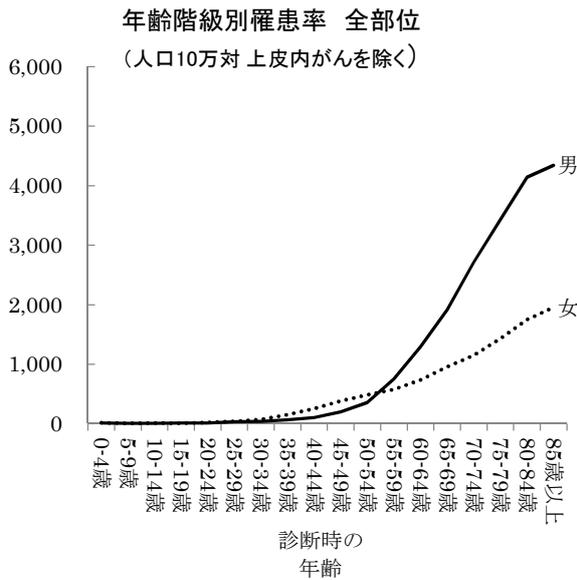


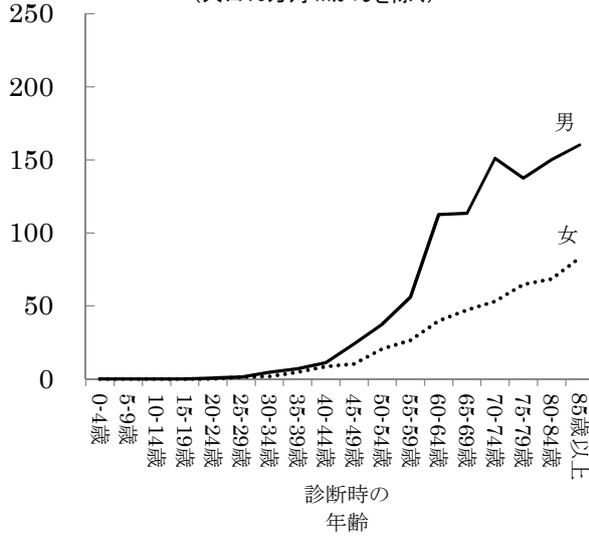
図4 部位別年齢階級別罹患率:人口10万対 (表3-A、Bから作成)



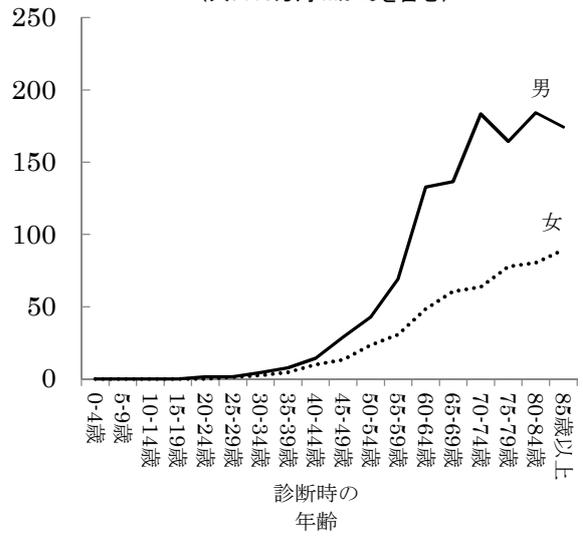


注) m がんについて: 我が国の地域がん登録では、大腸(結腸・直腸)の粘膜がん(m がん)は上皮内がんとして扱う。

年齢階級別罹患率 直腸  
(人口10万対 mがんを除く)

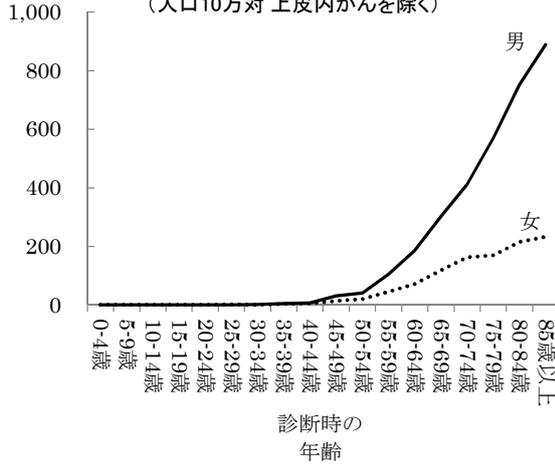


年齢階級別罹患率 直腸  
(人口10万対 mがんを含む)

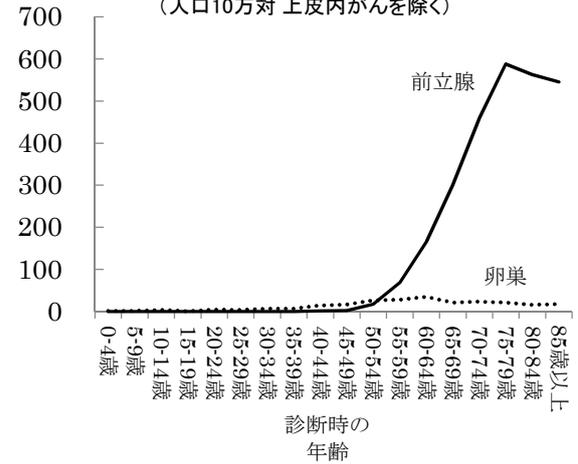


注) m がんについて: 我が国の地域がん登録では、大腸(結腸・直腸)の粘膜がん(m がん)は上皮内がんとして扱う。

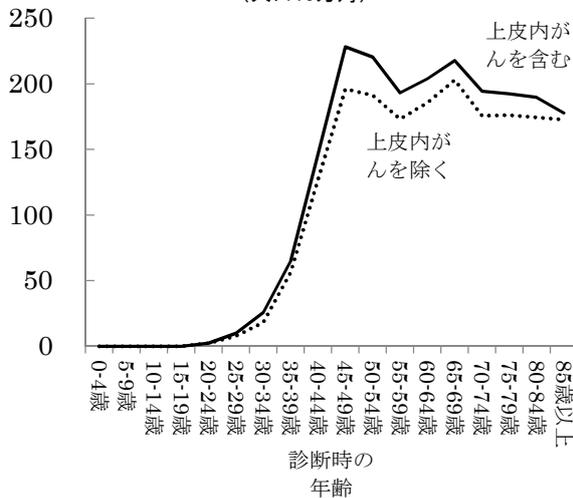
年齢階級別罹患率 肺  
(人口10万対 上皮内がんを除く)



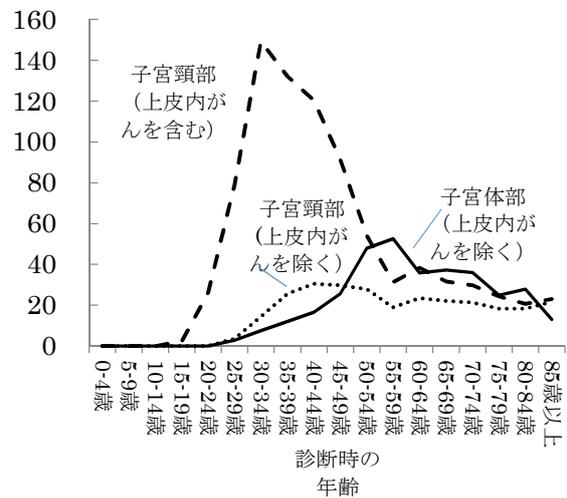
年齢階級別罹患率 前立腺・卵巣  
(人口10万対 上皮内がんを除く)



年齢階級別罹患率 乳房・女  
(人口10万対)



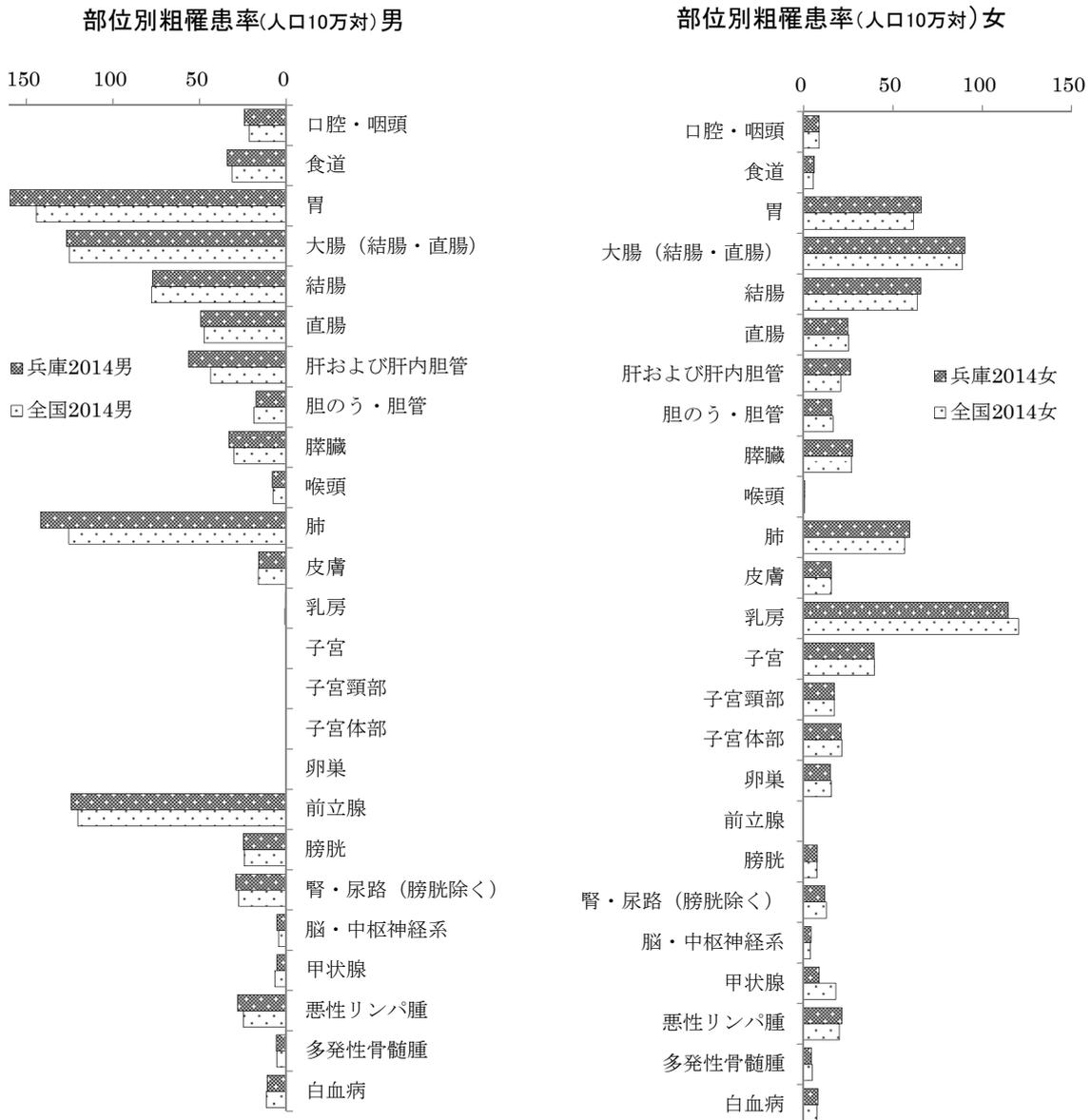
年齢階級別罹患率 子宮頸部・子宮体部  
(人口10万対)



## ●兵庫県のがん罹患の特徴

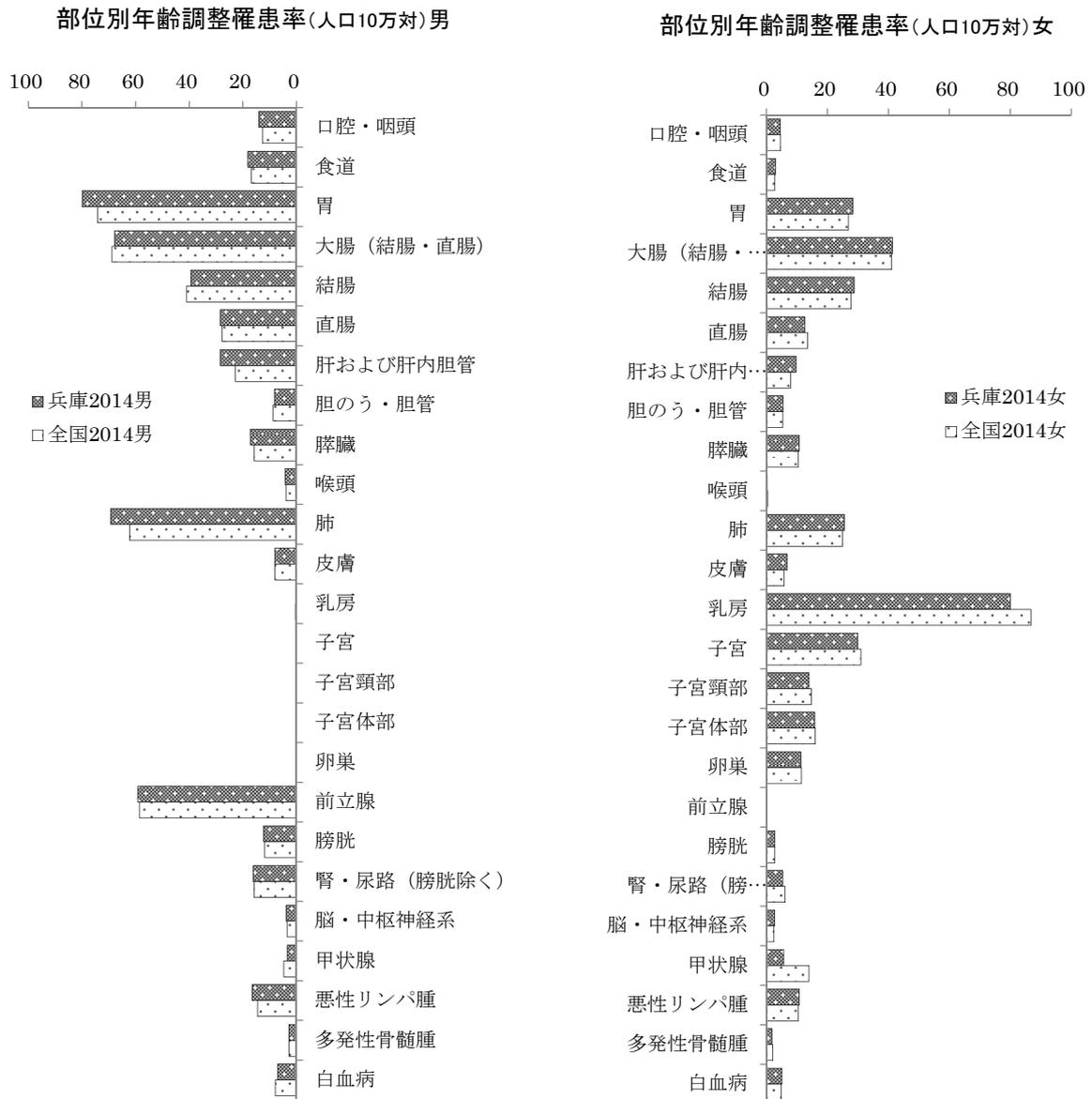
本県の罹患率は、全国とほぼ同じような傾向にあるが、男性の胃、肝、肺がんの罹患率は全国値より高く、女性の乳がんは全国値より低い(図 5)。なお、年齢調整罹患率は、(図 6)のとおりであり、同じ傾向にある。

図 5 部位別がん粗罹患率:人口 10 万対 (表 1-A から作成)



\* 全国値は、国立がん研究センターがん対策情報センター発行「全国がん罹患モニタリング集計 2014 年罹患数・率報告」より引用

図6 部位別年齢調整罹患率:人口10万対 (表1-A から作成)



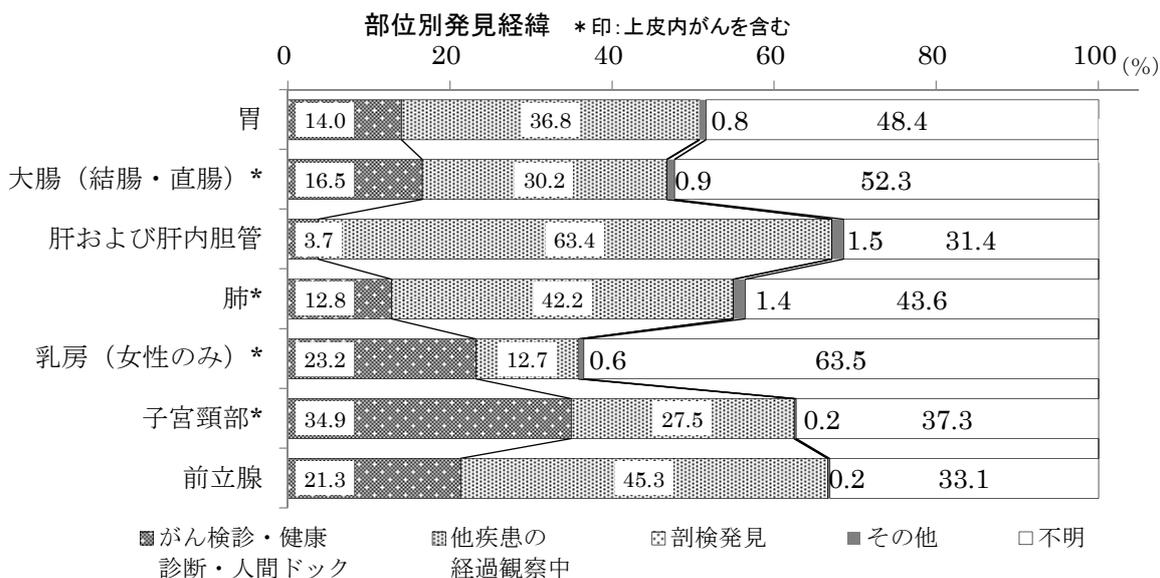
\* 全国値は、国立がん研究センターがん対策情報センター発行「全国がん罹患モニタリング集計 2014 年罹患数・率報告」より引用

## ●発見経緯

一般に検診が実施されている胃、大腸、肺、乳房、子宮頸部において、がん検診もしくは健康診断や人間ドックが発見の契機となった症例の割合は、胃 14.0%、大腸 16.5%、肺 12.8%、乳房 23.2%、子宮頸部 34.9%で、前立腺においても、がん検診・健康診断・人間ドックが発見の契機であった症例の割合は 21.3%であった。その他・不明には何らかの症状による医療機関受診時の発見が含まれ、その占める割合が多いと推察される。

肝・肝内胆管において、他疾患の経過観察中の発見が多いのは、肝炎や肝硬変の治療中の発見が挙げられる。また、前立腺においては、前立腺肥大や PSA 高値の経過観察中の発見によると考えられる(図 7)。

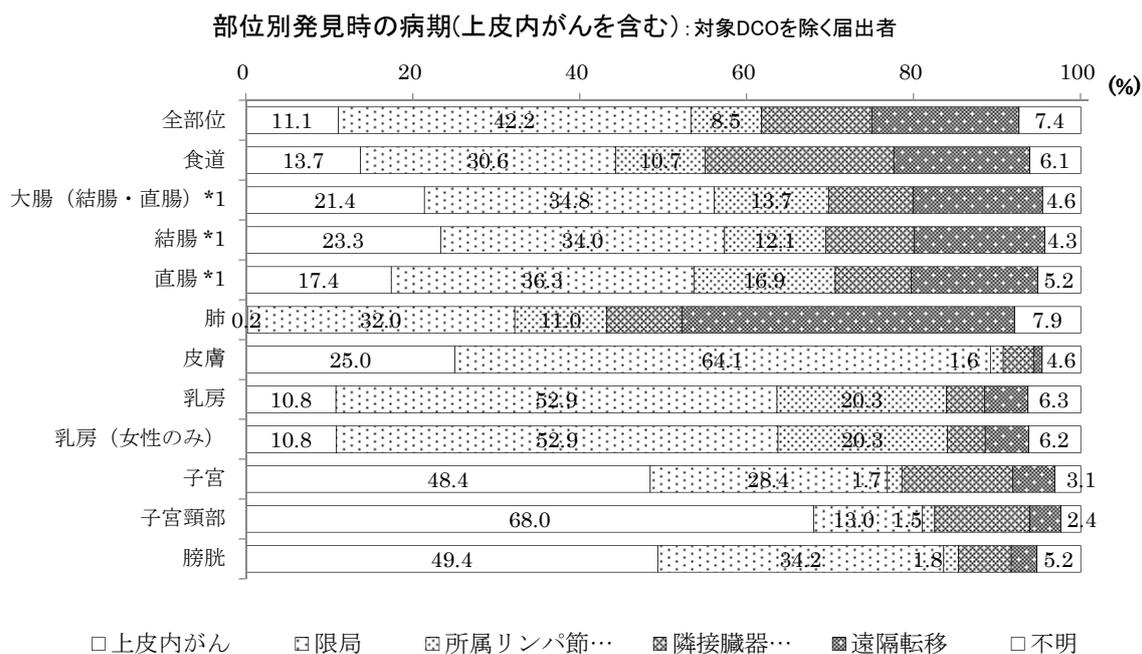
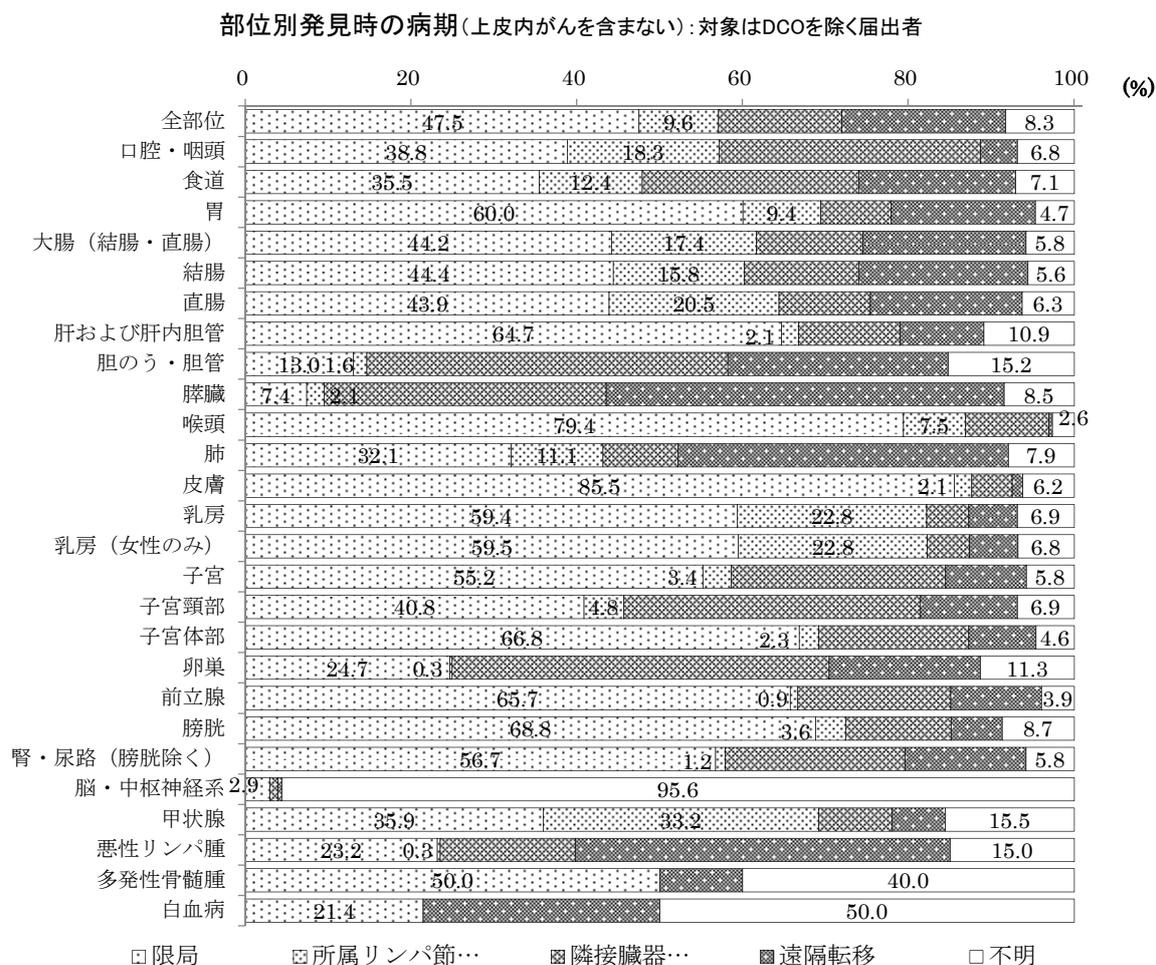
図 7 部位別発見経緯(%):対象は DCO を除く届出患者 (表 4-A、B から作成)



## ●病期

胃、大腸、乳房、子宮、前立腺など、一般的にがん検診が実施されている部位においては、発見時の病期が上皮内、限局の割合が高い。一方、肺は、がん検診が実施されている部位ではあるが、発見時に遠隔転移があった割合が高い。また、膵臓、胆のう・胆管のように腫瘍が比較的大きくなるまで自覚症状の出にくい部位では、発見時に遠隔転移があった割合が高い。(図 8)

図8 部位別発見時の病期(%) : 対象は DCO を除く届出患者 (表 5-A、B から作成)

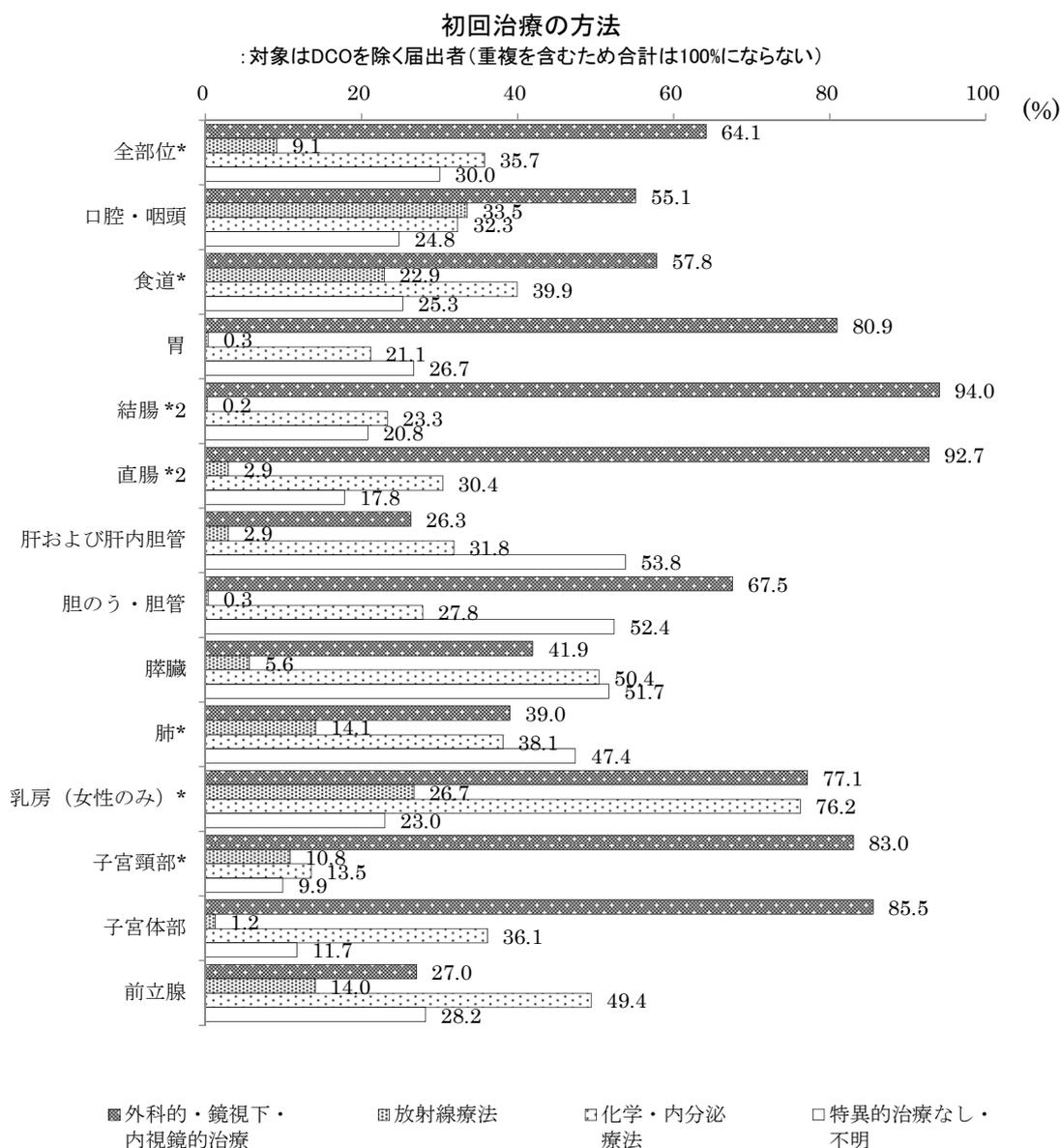


\*1 粘膜がんを含む

## ●初回治療の方法

胃、大腸などの消化管、乳房、子宮では、手術などの外科的治療の割合が高い。初回治療の方法は、複数回答のため外科的治療、放射線療法、化学・免疫・内分泌療法を組み合わせていることが考えられる。(図9)。

図9 初回治療の方法(%):対象はDCOを除く届出患者 (表6-A、Bから作成)



\* 上皮内がんを含む。

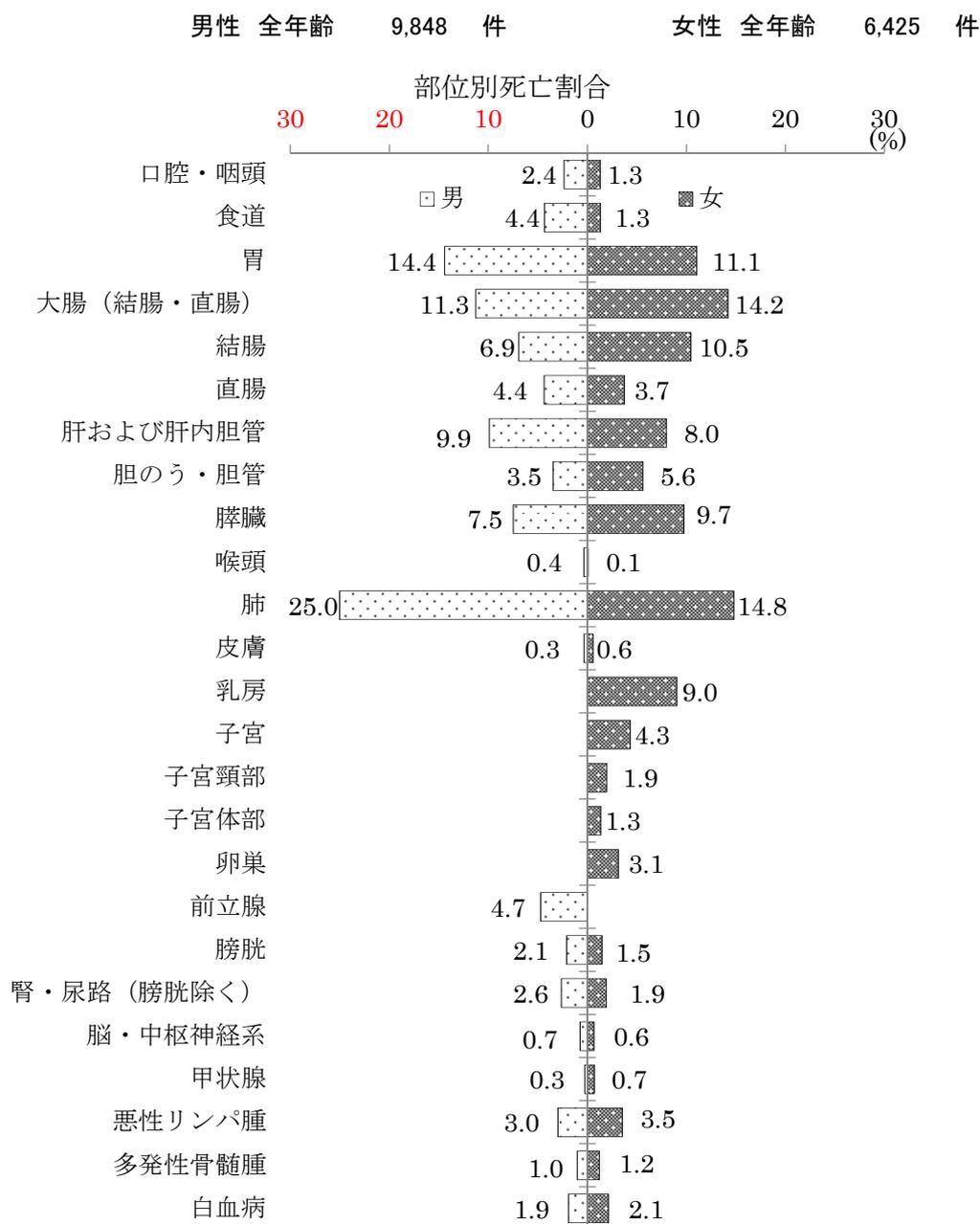
## ■死亡の概要

2014年に兵庫県において、男性9,848人、女性6,425人、合計16,273人が、がんで死亡していた。

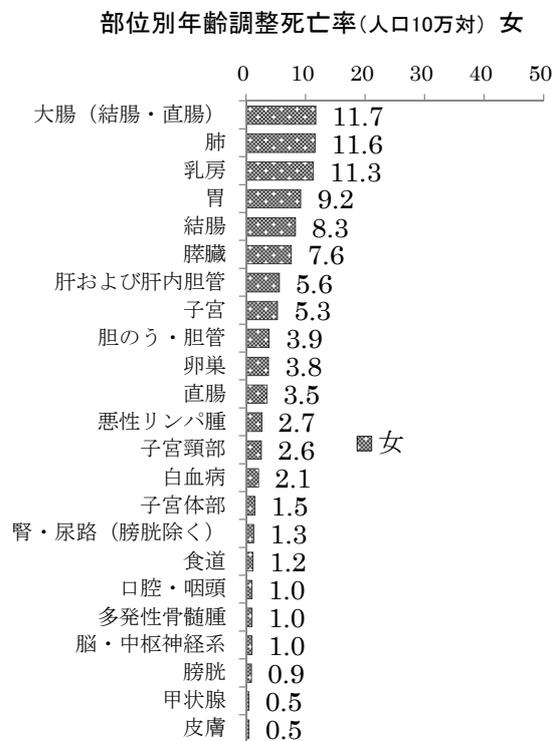
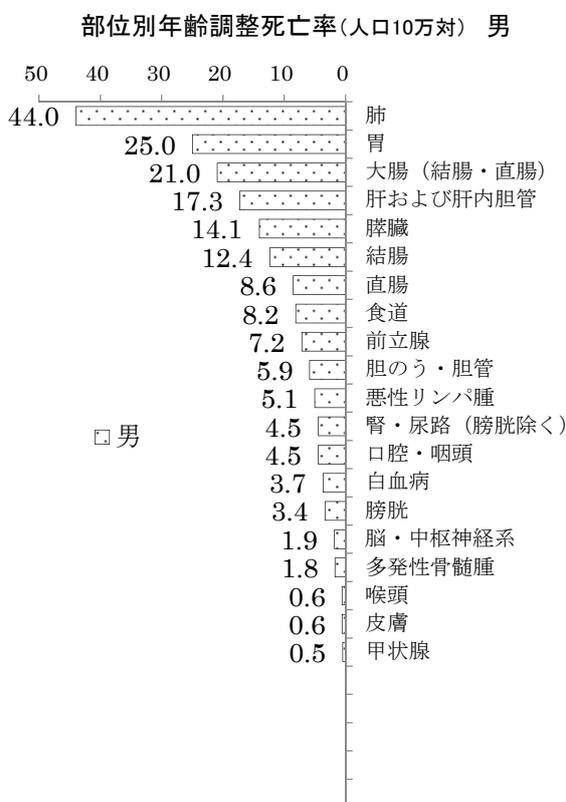
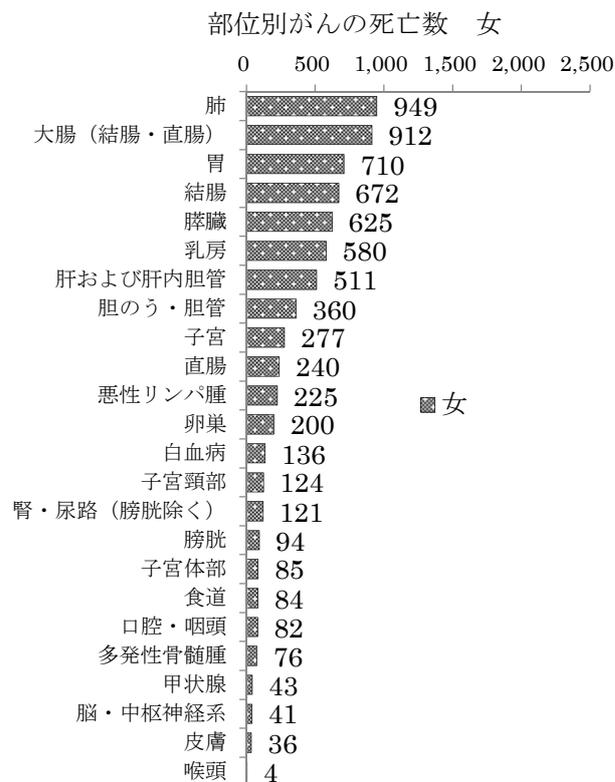
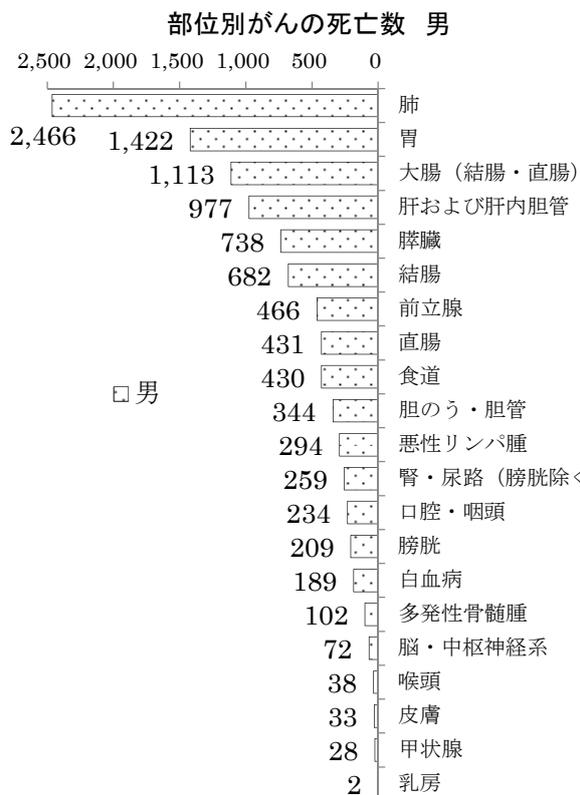
部位別では、男性では肺がんが最も多く、次いで胃、大腸(結腸・直腸)、肝、膵臓がんの順であった。女性では、肺に続いて大腸(結腸・直腸)、胃、膵臓がんが多かった。

(図10)

図10 部位内訳(%) (表9から作成)



部位別性別死亡数及び年齢調整死亡率(人口10万対)



### ●年齢別に見たがんの死亡

男女ともに兵庫県で2014年にがんで死亡した者の約8割(男性84.6%、女性83.5%)が65歳以上であった。

ほとんどあらゆる部位のがんは、年齢が高くなるほどかかりやすくなるため、がんによる死亡者も高齢者が多い。(図11、図12)。

図11 年齢別内訳(%) (表10から作成)

性別	死亡数		死亡内訳	
	男	女	男	女
0-14歳	10	4	0.1%	0.1%
15-39歳	51	78	0.5%	1.2%
40-64歳	1,451	979	14.7%	15.2%
65-74歳	2,898	1,370	29.4%	21.3%
75歳以上	5,438	3,994	55.2%	62.2%
合計	9,848	6,425	100.0%	100.0%

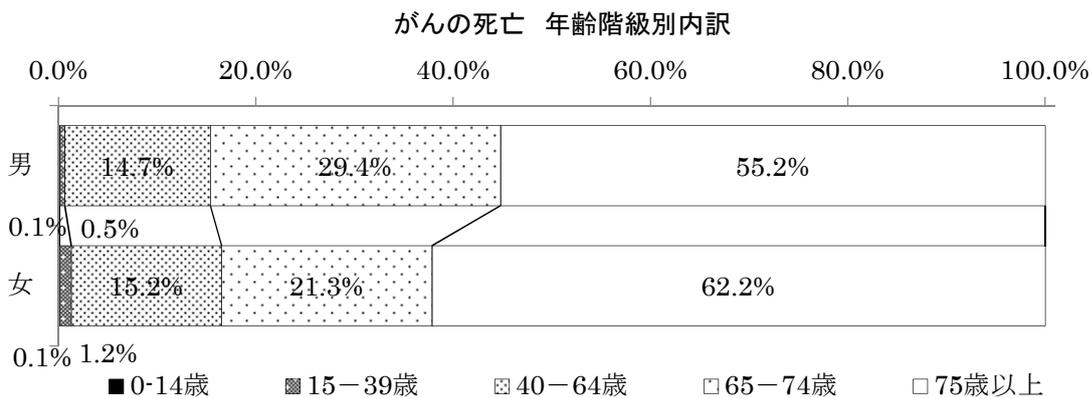
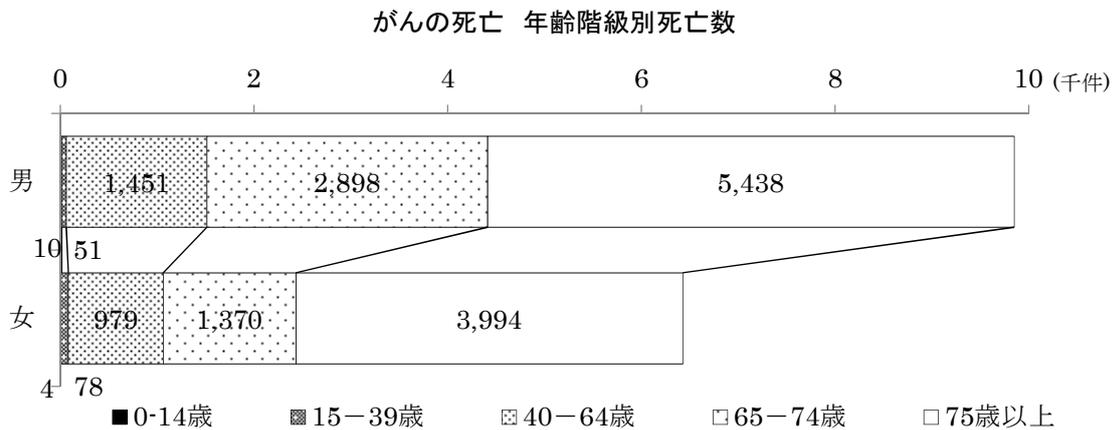
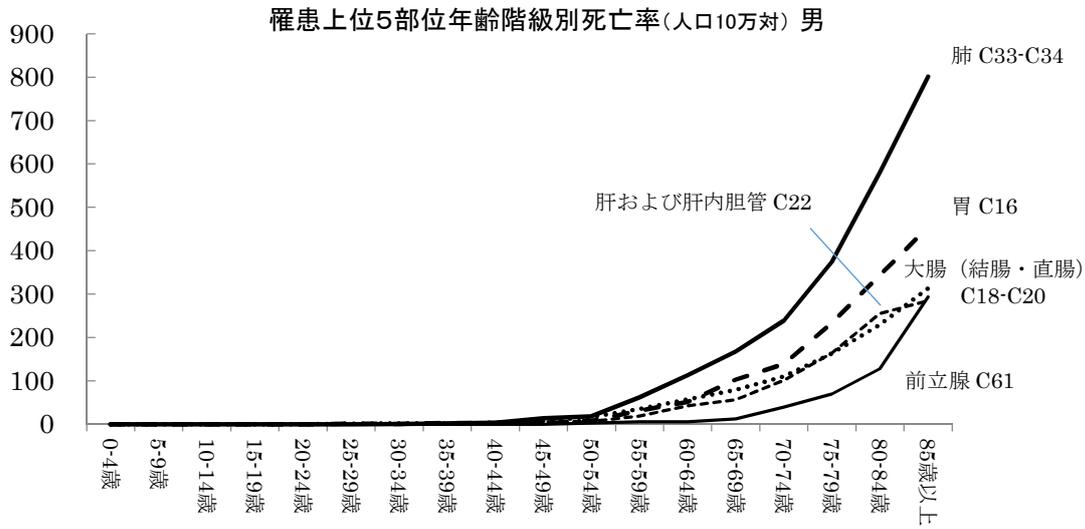
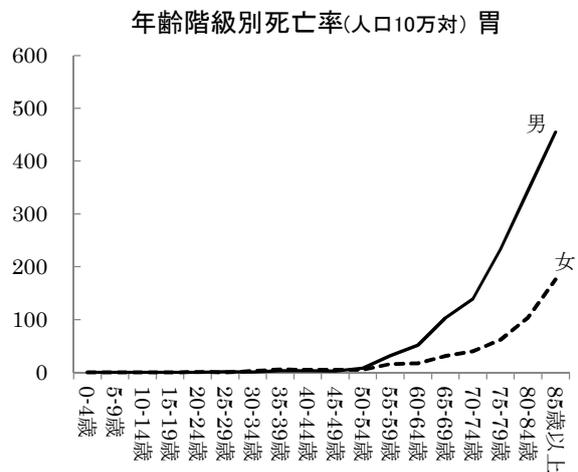
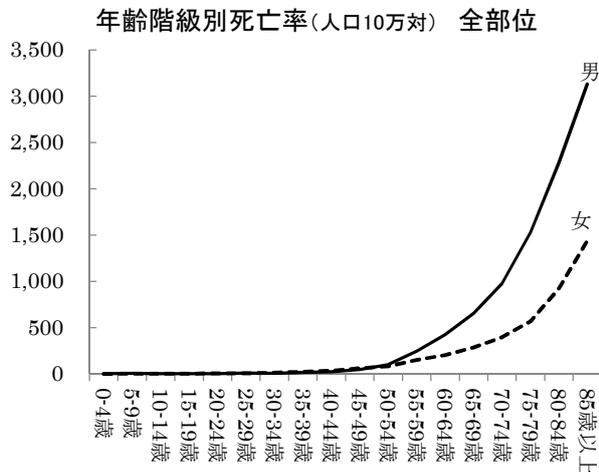
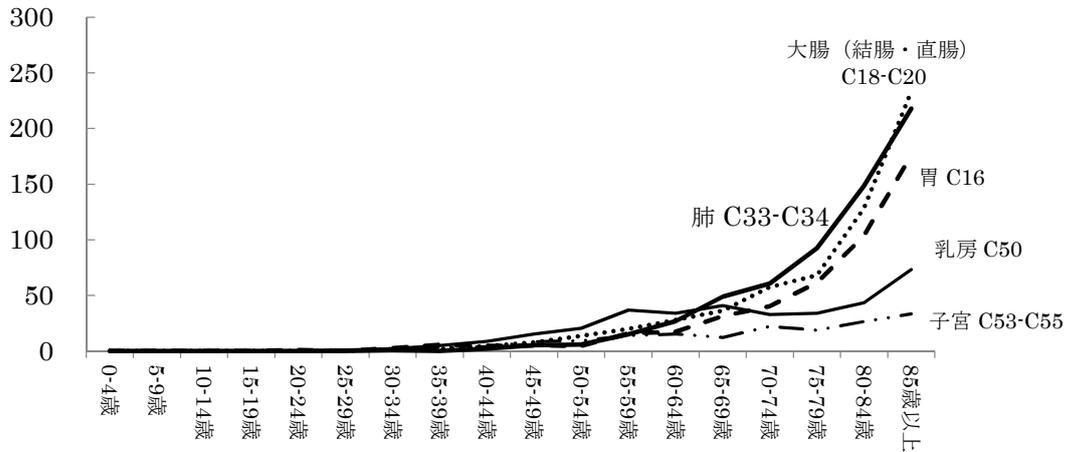


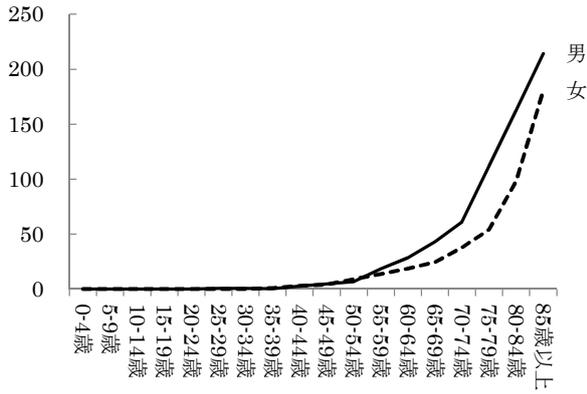
図 12 部位別・年齢階級別死亡率:人口 10 万対 (表 11 から作成)



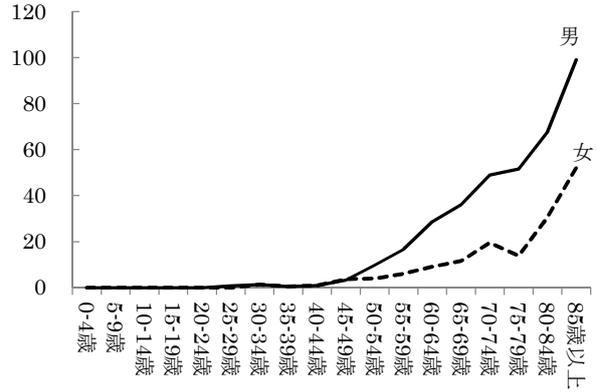
罹患上位5部位年齢階級別死亡率(人口10万対) 女



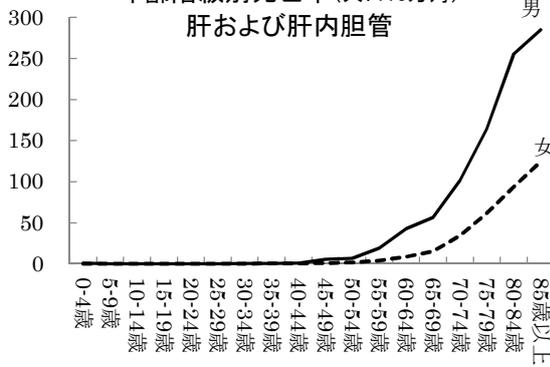
年齢階級別死亡率(人口10万対) 結腸



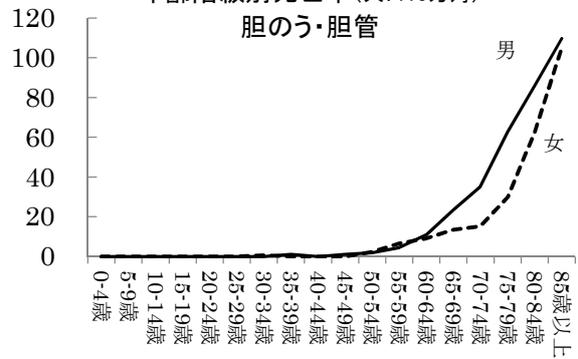
年齢階級別死亡率(人口10万対) 直腸



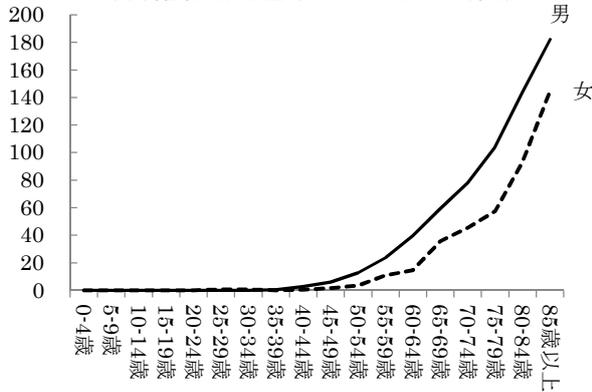
年齢階級別死亡率(人口10万対)  
肝および肝内胆管



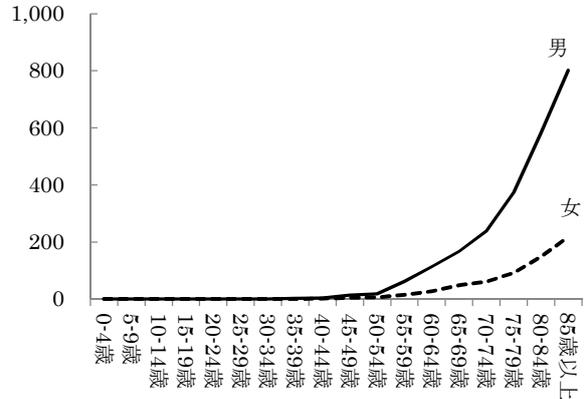
年齢階級別死亡率(人口10万対)  
胆のう・胆管



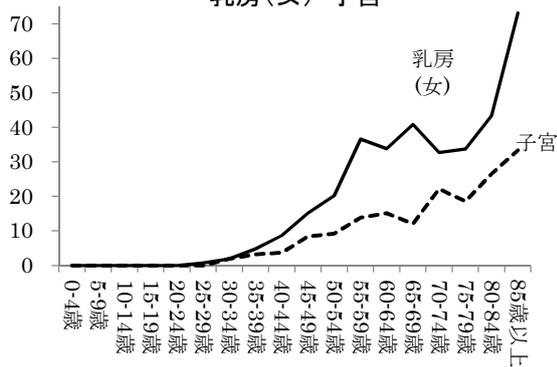
年齢階級別死亡率(人口10万対) 膵臓



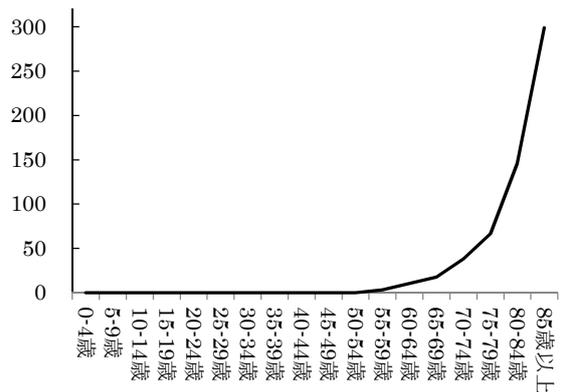
年齢階級別死亡率(人口10万対) 肺



年齢階級別死亡率(人口10万対)  
乳房(女)・子宮



年齢階級別死亡率(人口10万対) 前立腺



### ●兵庫県のがんの死亡の特徴

全国と比べて粗死亡率は、男性では、胃、肝、肺、女性では肝が高く、また、女性の大腸は低い(図 13)。なお、年齢調整死亡率については、(図 14)のとおりであり、同じ傾向にある。

図 13 部位別がん粗死亡率:人口 10 万対 (表 9 から作成)

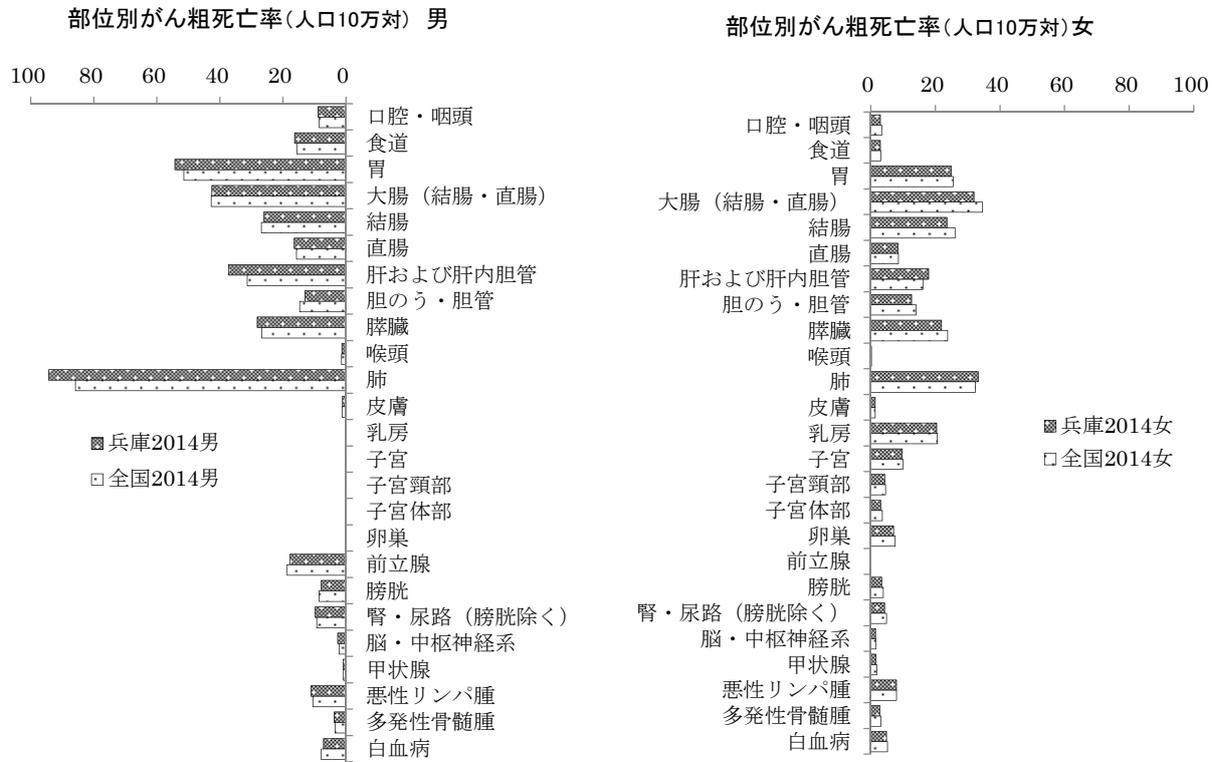
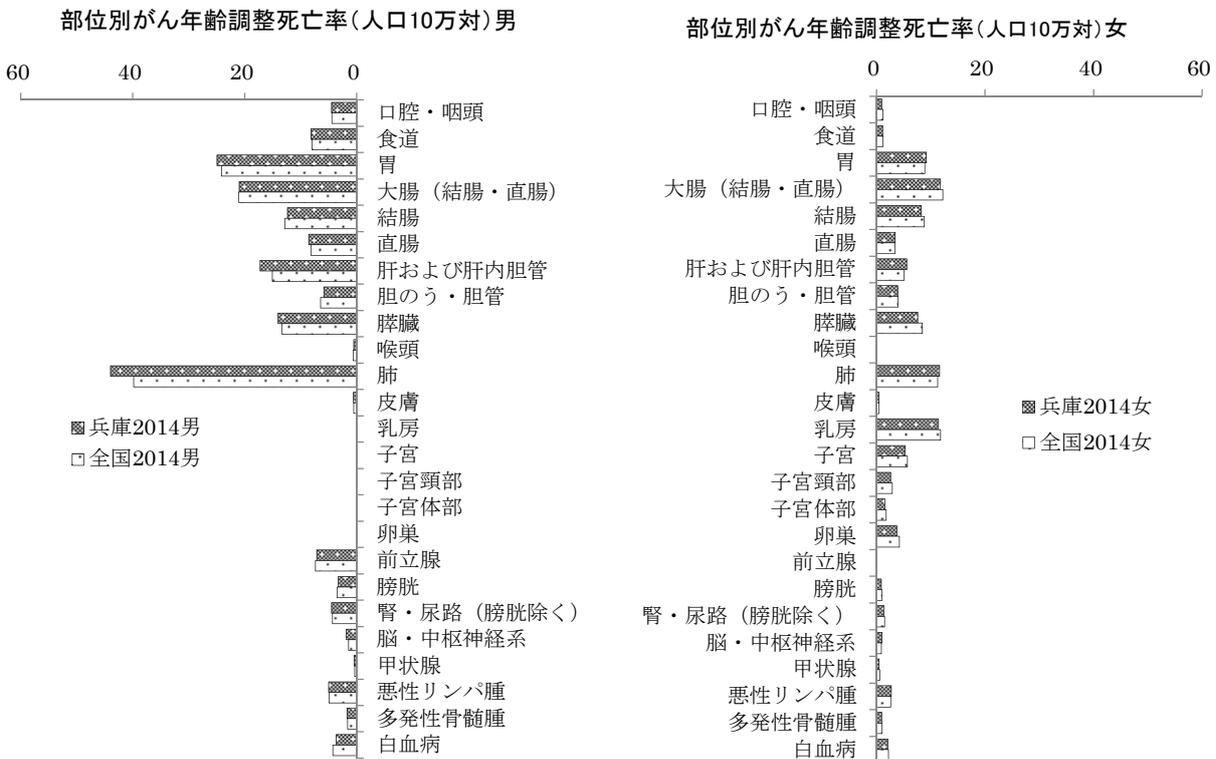


図 14 部位別がん年齢調整死亡率:人口 10 万対 (表 9 から作成)



\* 全国のは、国立がん研究センターがん対策情報センター発行「全国がん罹患モニタリング集計 2014 年罹患数・率報告」より引用